

質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大 学 等 名	明治学院大学		
取 組 名 称	心理支援論：心理学教育の新スタンダード		
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組		
取 組 期 間	平成20年度～平成22年度（3年間）		
取 組 学 部 等	心理学部	取組担当者	井上孝代
W e b サ イ ト	http://psy.meijigakuin.ac.jp/gp/		
取 組 の 概 要	心理学を学んだ者に対する期待や多様なニーズに応えるために、心理学の全領域を総合的に学修させる4年間の構造化された必修基幹科目プログラム「心理支援論」を開設し、心理支援力を修得させることとした。本取組においては、学内での授業・外部講師による講演会・他学部との協働講座等の学修と学外でのコミュニティ資源を活用した体験活動学修との循環型教育をシステム化した心理学教育の新スタンダードとしての可能性をDVDおよびテキスト{心理支援論}で提案した。		

1. 取組の実施状況等

①取組の実施状況 【1ページ以内】

(1)取組の実施体制（マネジメント体制、教職員の体制、大学としての支援体制）

心理学部に教育GP推進室（推室長：学部長）を置き、その下に、統括、副統括、「心理支援論」WG、白金心理学会WG、体験活動サポート室運営WGを置いた。推進室連絡会にて実施計画・実行について協議し、実施の方向性を決定した。協議内容は教授会で報告し、心理学部の全教員に情報を周知した。体験活動サポート室勤務助手の雇用のための規程の整備等、サポート室の場所の確保、電話番号の割り振り、予算執行の補助等について大学としての支援が行われた。

(2)取組の実施計画に掲げた内容

- ① 2008年度から、コミュニティ資源の活用のために「白金こころ塾」にてワンダーズマン教授によるエンパワメント評価の講演会等を開催し（教員40名）、2009年度、2010年度は法科大学院との協働講座を開催した（参加学生、各200名）。
- ② 2008年度に循環型教育システムの鍵となる機関である体験活動サポート室を開設し、2009年度から本格稼働させ、2010年度は横浜キャンパスに分室を開設した。
- ③ 2008年度にコミュニティの心理支援システムを構築するために心理学部卒業生・修了生の同窓会組織「白金心理学会」を設立し、2011年度に心理支援論のテキストとして「心理支援論 心理学教育の新スタンダードをめざして」を出版した。
- ④ 2009年度、2010年度に体験活動受入機関9カ所にインタビュー調査・分析を行い、エンパワメント評価を行うと共に、その成果を2010年度に報告書に著した。

(3)社会への情報提供活動（Webサイトの活用、新聞、テレビ等のマスコミの活用等）

- ① 明治学院大学心理学部のホームページに本教育GPの取組・活動を紹介している <http://psy.meijigakuin.ac.jp/gp/>。
- ② 2008年度、2009年度末に、年度ごとの成果と課題を明らかにするために報告会を実施した（2010年度は、東日本大震災のために中止）。
- ③ 2008年度、2009年度、2010年度末に、各年度の報告書を作成し、体験活動先や東京都港区、横浜市戸塚区などに配布した。

②. 取組の成果 【1 ページ以内】

教育内容の質的向上（教育力向上）：そのプロセスと成果

本取組においては、コミュニティ資源の活用と体験活動サポート室の開設、循環型教育システムの導入、心理学教育の新スタンダードの構築を目指した。

基幹科目「心理支援論」を1年生から4年生までの必修科目として、1年生では心理支援論1、2年生では心理支援論2、3年生では心理支援論3と心理支援論（総合）A、4年生では心理支援論（総合）Bを開設した。心理支援論（総合）Aの履修開始時に1・2年生で何を学んだかを調査した結果、「心理支援とはどのようなものか理解できた」、「心理支援に関わる職業」「深く学びたい領域が見つかった」などの評定が高くなっており、これらの面での学修効果がみられた（2008年度報告書、34-35；2009年度報告書、13-15；）。さらに、グループによる研究活動を中心的に行う心理支援論（総合）A開始時、中間時、終了時でのグループ研究活動への評価を行った結果、「有意義な意見交換ができる」は4.1、4.4、4.5と増加し（開始・中間・終了、以下同じ）、「グループ活動が楽しみである」は3.4、3.7、4.3と増加し、「グループ活動に不安がある」は4.9、3.8、2.5と低下した（2008年度報告書、34-36；2009年度報告書、17-21）。さらに、アドバイザーとして心理支援論（総合）A・Bに参加した大学院生の意識も、授業に参加することによって、自らのコミュニケーション力、グループマネジメント力の成長の実感を示すものであった（2008年度報告書、37-38；2010年度報告書、5-15）。心理支援論（総合）A開始時と心理支援論（総合）B終了時の「体験活動サポート室を通じた体験活動を通して学んだこと、考えたこと」について自由記述を分析した結果、教室で学習した内容と支援の現場に行き、実際に支援に関わることは全く異なり、実際に「体験・参加してはじめて分かること」、障害児・者に自分が何ができるか、どう接すればよいか、家族などの周りの人への気持ちを知ることなど「障がいの理解」や「支援対象者との接し方・関わり方」「支援の難しさ、大変さ、迷い」などについて学んでいることが分かり（2010年度報告書、16-25）、体験活動サポート室を設置し、心理支援の実際に触れさせる、さらにそれをもとに大学での授業を充実させる循環型教育を行うという本取組の成果・重要性が明らかになった。

2009年度から2010年度にかけて9つの体験活動機関に対して、教育効果を検証し、体験活動のあり方を改善するために、エンパワメント評価の視点から半構造化面接によるインタビューを行い、その内容について分析した。その結果、体験活動受入機関は、学生の受け入れについてメリットを感じており、体験活動に参加する学生への期待は大きく、高く評価する回答も見られた。「学生が体験を通して社会を学ぶ機会」を提供するシステムである体験活動に対して多くの活動機関が「期待している」と回答したことから、本学の取組は一定以上の成果を上げていることが明らかになった。同時に、学生の体験活動に参加する目的意識が明確でないことや学生のコミュニケーション能力の問題、さらに、一時的な体験ではなくより継続的な参加を期待する意見もあった。また、大学教員に対して、支援対象をどのように支援するかという現場のニーズにこれまで以上に取り組んで欲しいという期待も述べられた。

報告会には体験活動受入機関、本学教員、本学事務職員、などからの多くの参加者があった。

③. 評価及び改善・充実への取組 【1ページ以内】

- ・教育GPの事業を推進していくために、いくつかのワーキンググループ（心理支援論WG、体験活動サポートWG、評価WG、白金心理学会WG、白金こころ塾WG）からなる教育GP推進室連絡会を設置した。
- ・毎月1回の定例会議日を設定し、教育GP推進室連絡会を開催した。その会議においては、教育GPに関わる事業の実施状況や問題点及び方向性、将来の事業計画・予算等について議論した。会議での協議内容や情報については学部の全教員・教学補佐で共有した。
- ・心理支援論WGは、1年生から4年生までの心理支援論の授業に関わる事柄について効果的な学修の実施を可能にするようにつとめた。
- ・体験活動サポートWGは、体験活動先の確保、学生の体験活動のための事前指導及び事後指導、体験先の登録や学生の体験活動ポイント管理などのデータベースの構築等について計画・実施・確認するなどの機能を果たした。
- ・評価WGは、「心理支援論」受講による学修効果を明らかにするために、1年生から4年生までの各学年の「心理支援論」授業開始時と授業終了時に、アンケート調査を実施し、その結果を分析した。さらに、体験活動機関に対して「心理支援論」や体験学生についてインタビューを行い、そのデータを分析し、本取組の評価を行った。
- ・白金心理学会WGは、本学卒業生・修了生及び在学生・教職員を対象として、年1回開催する学術講演会・クロストークなどについて、さらに、白金サイコロゼキャリア支援活動等を行った。
- ・白金こころ塾WGでは、支援の当事者として活躍する実践者や第一線で活躍する研究者などをゲストスピーカーに迎え、現代社会における心理支援のニーズや心理支援の基礎となる事柄についての理解を深めるための計画・実施にあたった。

2009年度に受審した明治学院大学に対する大学評価（認証評価）結果の中で次のように評価されている。

2 教育内容・方法

(1) 教育課程等

心理学部

1・2年次に心理学系の必修基礎科目18科目、専門講義科目45科目を配置したカリキュラムはバランスよく配置されている。基幹科目として配置されている必修の「心理支援論」は、「こころを探り、人を支える」という学部の教育理念を現実的な授業にした科目で、学生および自治体や地域のNPO法人などコミュニティ資源を活用したユニークな授業として、2008（平成20）年度の文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」にも選定されている。

1・2年次の基礎科目では、「講義科目、実験・実習科目といった区別をしていないため、具体的な授業形態が理解されにくい」など、いくつかの課題については、今後の工夫に期待したい。

④. 財政支援期間終了後の取組 【1 ページ以内】

実施状況

明治学院大学「G P 助成期間満了後の取組支援制度」により、平成 23 年 4 月から、取組名称「心理支援論による学士力育成教育プログラム- 社会のニーズに応えるキャリア支援に向けて -」を申請し、教育G P 「心理支援論：心理学教育の新スタンダード」を基にした事業を展開している。

取組の対象となる授業科目「心理支援論」は、2008 年度生から必須科目となっており、2013 年度まで継続している。さらに、2010 年度設置された教育発達学科設置の際に課程認定を受けた「体験活動方法論」を開講している。「心理支援論」や「体験活動方法論」を受講するためには、履修前に「体験活動ポイント」の取得が受講条件となっていることもあり、循環型教育プログラムの鍵となる体験活動サポート室の機能が発揮できるような体制を構築している。

明治学院大学「G P 助成期間満了後の取組支援制度」により、2011 年度に 8,000,000 円の助成を受けた。次年度 7,000,000 円、次次年度 6,000,000 円の支援を受ける予定である。

以下、取組の要点である。

- ・ 計画の実施に関わる統括を行うために、学部長を長とする「推進室」を設置する。それを核として、推進室運営会議、体験活動サポート室運営会議、エンパワメント評価会議を置き、取組の実行に必要な実施体制を構築
- ・ 1 年生から 4 年生までの基幹科目「心理支援論」の開講
- ・ 体験活動サポート室における、学外での体験活動のコーディネート、活動先との交渉、活動希望先登録受付、事前・事後指導、相談等の実施
- ・ 学士力向上やキャリア形成のために明治学院大学内の人的資源の活用
- ・ 地域コミュニティへのサービスの提供、卒業生・修了生の人的資源活用や社会的ネットワークの強化のために白金心理学会との連携

教育G P の事業を継続的・発展的に実施するにあたっての課題として、体験活動サポート室の円滑な運営のための特別T A ・アルバイト等の非常勤職員の雇用等の経費をどのように調達するか、また、心理学科と教育発達学科の特性に応じた心理支援・キャリア形成をどのように進めるかがあげられる。また、心理学部のすべての教員がこの事業にどのように関与するか、どのような役割を果たすかなどについてコンセンサスを図ることも難しい課題である。

2. 取組の全体像 【1ページ以内】

本取組の目的は、「1年生から4年生までの「心理支援論」の学修を通して心理支援力を学修させることである。

2008年度「教育GP」選定

- ・講義で学習したことを、グループ学習を経て、体験活動を学外で行う。各授業開始時と最終授業時にアンケートを行い、参加型エンパワメント評価、体験活動先へのインタビュー・分析などにより、教育効果の測定を実施し、授業内容の改善やFDに活用している。
 - ・本取組は、2008年度から継続的な仕組みとして、社会の様々な機関との信頼関係を構築し、広がっている。
 - ・心理支援論—心理学教育の新スタンダード構築をめざして」を出版し、取組を広く紹介している。
- (図中の数値は2010年度)

